

85春闘勝利・謀略攻撃粉碎・首切り「三本柱」粉碎！

この力であらゆる反動うち破れ

日刊 動労千葉

85. 4. 23

No. 1923

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

4・16 動労千葉総決起集会

496名の結集で大成功を収める

四月十六日、津田沼電車区構内で開催された「85春闘勝利、謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り『三本柱』粉碎、動労千葉総決起集会」は、全支部から四九六名の結集をもって圧倒的成功をかちとり、この決起を起点に津田沼電車区を焦点とする謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り「三本柱」粉碎、「過員対策」強行阻止に向けさらに闘う体制の強化を意志一致した。しかし、総評・公労協は、四月十六日の政労交渉で「民賃動向を反映した有額回答を格差なしで十九日に行わせることができた」ことを評価し、十七日のスト中止を決定した。

こうした動向を受け、動労千葉は十七日の非協力・安全確認行動を中止し、今後の闘いの中で大幅賃上げ獲得に向けた取り組みの強化を指令した。

労働組合の進むべき道を鮮明に提起

中野委員長があいさつ

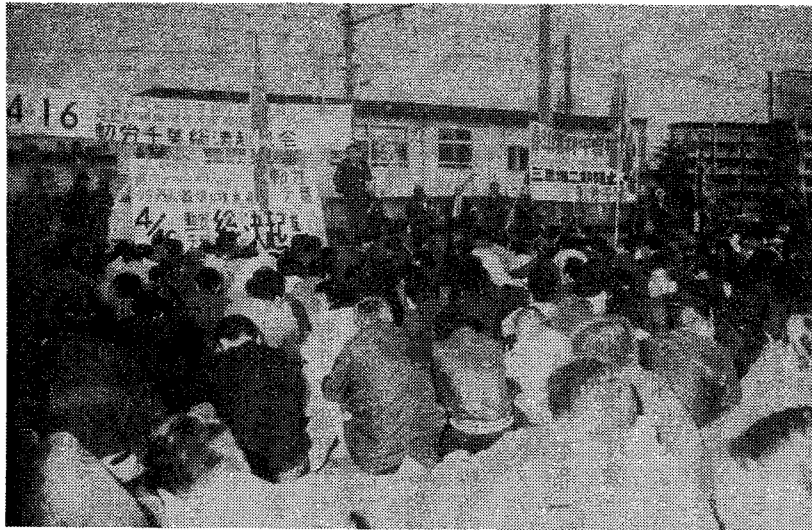
十八時、全支部からぞくぞくと結集した組合員が津田沼電車区構内を埋める中、集会は司会の吉岡特執のシュプレヒコールで始まった。

冒頭、中野委員長がたち本部を代表してあいさつした。

中野委員長はまず、大企業と大労組幹部の取り引きや「ストを構えたら認めない」などという屈辱的な政労会談によって、昨年並みかそれ以下で収拾されようとしている管理春闘を批判し「怒りをふりしぼり、執念深く一歩、二歩前進する闘いで将来を切り拓こう」と述べた。

そして「60・3」以降、発生している異常な事態について全参加者に報告した。

中野委員長は「東京を突破口に『三本柱』や『職場規律』等、当局に協力する乗務員を交番にのせ、当局施策に協力せず、反抗する者、55才以上の乗務員を予備にするという差別攻撃が開始された。国労は『三本柱』を受け入れ『本人の意志を尊重』『差別はしない』ことを明確化させたにもかかわらず、当局が動労『本部』『革マル』の要求にのっかり、こうした攻撃に出てくる狙いこそ、中



496名が津田沼に総結集



中野委員長

曾根の『戦後政治の総決算』をかけた攻撃の焦点が国鉄労働運動解体にあるからであると強調した。

そのうえで、「カーテン」や「ビラ貼り」「放火」などは津田沼をめぐって起きている事態について「これは津田沼に集う嶋田、海宝らの手引きで、権力の弾圧をむけさせるために革マルが仕組んだものであり、かつての三大謀略事件の役割を今、動労革マルにさせようとしているものだ」と述べ、「三本柱」推進運動に全組織をあげ、動労千葉、国労破壊の先兵にたつ動労



中江顧問

「本部」革マルの弾効・一掃を呼びかけた。そして最後に「聞えない、何もできない状況があるが、ゆるぎない団結で前を向いて進もう。動労千葉の動向が国鉄労働運動の未来を決する。夜明け前は一番暗いが、この先に一筋の光明がある」と訴え、労働者の進むべき道を指し示した。

謀略的組織破壊を許さない 山下津田沼支部長が決意



山下津田沼支部長

つづいて社会党を代表して中江顧問は、「否定すべき現状をうち破るカギは国鉄労働者が握っている。この結集を『分割・民営化』粉碎の出発点にしよう」とあいさつした。

（裏面へつづく）